



萬代橋  
130周年

4回シリーズ

# 萬代橋といがた 誇りを未来へ

今から130年前の1886(明治19)年、信濃川下流に初代萬代橋が架かりました。

当時はまだ別の町だった新潟町と沼垂町を結んだ木造の橋は、人々の暮らしを支え、まちの姿を変えていきました。

にいがたと萬代橋の130年を4回シリーズで振り返り、にいがたと橋の未来をともに考えましょう。この先の未来も、萬代橋とともに。

第4回

# 「ようづよ」まで 続け 萬代橋

柳都大橋が  
できるまで

「万代橋下流橋」と長く仮称された柳都大橋は、市民の愛着と歴史ある萬代橋に隣接する兄弟橋として構想され、萬代橋と調和すると同時に再開発中の万代島との景観とも調和するという、デザイン面で高いハードルが課されていました。1994(平成6)年に実施した市民アンケートを参考にデザイン委員会で検討が



重ねられ、2000(平成12)年にデザインを発表。環境と調和するシンプルなデザインと伸びやかなアーチ、その曲線を美しく保つために国内橋梁では初めて採用したファインセラミックス仕上げなどを特長としています。

そして同年、橋の名称を募集すると全国から1万通を超える応募がありました。選考委員会で選ばれたのが「柳都」。かつての新潟がそう呼ばれていただけでなく、柳都という言葉の響きがしなやかで、未来に伸びる新潟の都市像を象徴するというのが選考理由です。開通は2002(平成14)年5月19日。それに先だって行われた柳都大橋誕生祭にはおよそ3万人の市民が詰めかけ、関心の高さを示しました。

にいがた  
みちコラム

街と暮らしを  
支え続けるために



三代目萬代橋は今年87歳。「萬代橋みがき」では、地元小学生が中心となって萬代橋の清掃を行いました。橋に関心を持ち、大切に扱うことが架橋当時と変わらない萬代橋の姿と強度を保つことにつながります。



上流側から見た萬代橋と柳都大橋。2本の美しい橋が並ぶ水辺の景観は新潟市民の誇り

日本の橋梁技術の粋を結集して建設され、架橋の1929(昭和4)年から現代に至るまで新潟の交通の要であった三代目萬代橋は2004(平成16)年、国道の橋梁として、東京・日本橋に続く2例目の重要文化財に指定されました。周辺市町村と合併して政令市となつた新・新潟市誕生からおよそ10年。今も萬代橋は市民が誇るふるさとのシンボルとして、あり続けています。

日本の橋梁技術の粋を結集して建設され、架橋の1929(昭和4)年から現代に至るまで新潟の交通の要であった三代目萬代橋は2004(平成16)年、国道の橋梁として、東京・日本橋に続く2例目の重要文化財に指定されました。周辺市町村と合併して政令市となつた新・新潟市誕生からおよそ10年。今も萬代橋は市民が誇るふるさとのシンボルとして、あり続けています。

萬代橋といがた  
いつまでも

全国に誇る  
「新潟の宝」に

萬代橋は節目ごとにその価値を再認識し広く知つてもらうためのさまざまな取り組みが市民参加で行われてきました。30年前の萬代橋100周年を機にライトアップや萬代橋チューリップフェスティバルが始まり、市民から広く募金を集めて実施したライトアップは、当時の建設大臣から「手づくり郷土賞」を受賞。1999(平成11)年の三代目萬代橋竣工70周年を節目として、萬代橋を中心とした新潟市のまちづくりを考える市民の会合が盛んになりました。市民イベントの萬代橋誕生祭がスタート(2003年)したのもこの時期です。このような中、市民から「萬代橋を重要文化財に」という声が上がり始めます。

2003(平成15)年になると75周年に向けて官民一体となった活動が本格化します。翌年2月には新潟市長から萬代橋の重要文化財指定を文化庁に申請、新潟国道事務所により萬代橋を建設当初の姿に復元する事業も行われます。4月には「萬代橋復元プロジェクト実行委員会」が発足。主旨に賛同

した人々からおよそ1800万円の募金が集まり、橋側灯設置費用の一部に充てられました。そして7月に重要文化財指定が正式決定。指定理由は橋梁デザイン史上における価値が高いとともに当時の技術レベルの高さを示す土木構造物であることでした。8月の萬代橋誕生祭までは全ての復元工事が終了し、多くの市民が自分たちの活動の成果でもある重要文化財指定を祝いました。萬代橋が重要文化財となつたことは市民活動において一つのゴールであり、萬代橋をまちづくりに生かしていく新たなスタートとなりました。

萬代橋生かした  
まちづくり着々

2004(平成16)年の萬代橋を復元する工事と同時に、自転車歩行者道には歩行者のために融雪装置、自転車通行のために水はけの良いアスファルトが設置され、快適さが増しました。さらには柳都大橋ができたことにより、萬代橋の自動車交通量がピーク時のおよそ半分になり渋滞が緩和され、市街中心部でより確実な公共交通への環境が整います。自動車だけでなく人を中心としたまちづくりへ変わりつつあります。

初代萬代橋が信濃川で隔てられた2つの町を繋いで130年、三代目萬代橋が新潟駅から中心市街地へ人を渡して87年。この間新潟のまちは大きく発展し、自動車全盛の時代から再び人が中心の時代へ変わろうとしています。人が集い、にぎわい、憩う場所へ、街は

萬代橋の未来  
絶え間なく、未来に向かって変化し続けています。

萬代橋の未来

現在の萬代橋が完成した87年前、工事を統括した正子重三は「橋の寿命は大切にすると如何によつて非常な差異があるものである」とし「市県民一致協力してこれを愛し合い誇り合うようにして貰いたいと思う」と述べています。これからも萬代橋を愛することと、萬代橋は現役の重要文化財として「ようづよ」まで続き、新潟のまちづくりに寄与することにつながります。



宮浦中学生による萬代橋観光ガイド。例年8月の萬代橋誕生祭に参加しガイド活動をしています

## 教材になった萬代橋

新潟市内の多くの小中学生が萬代橋の歴史や役割について、総合学習などで学んでいたりの「のを知っていますか? 新潟市では多くの町代橋は、新潟を知る入り口の一つでもあります。中でも萬代橋が校区にある宮浦中学校では生徒たちが「観光ガイド委員会」をつくり、萬代橋をより深く知つもらおう取り組みを行っています。

萬代橋130周年事業実行委員会より

多くの皆様に支えられて萬代橋は130周年を迎みました。これから社会資本はどんどん高齢化しますが、それに対応し安全・安心を守るべく適切なメンテナンスを行っています。萬代橋と共に身近な社会資本にも关心が寄せられ、ともに守り育まれていくことを願っています。



萬代橋130周年 フォトコンテスト  
受賞作品展

2016年11月12日(土) 新潟日報メディアシップ1F みなと広場  
2016年11月13日(日)~30日(水) 新潟日報メディアシップ1F  
フレッシュネスバーガー向かい

お知らせ

## 萬代橋130周年事業

初代萬代橋架橋から130年を迎える11月にむけて、新潟国道事務所、新潟県、新潟市、新潟日報社では実行委員会を組織し、写真コンテスト、シンポジウムなどの記念事業を実施しています。詳しくは、ホームページをご確認ください。